

## 1979年度 秋季研究発表会

1979年度秋季研究発表会が、9月20日、21日、22日（見学会）、千葉県野田市の東京理科大学特別教室で開催されました。この大会は、東京理科大学理工学部國澤清典教授を実行委員長とする実行委員会によって準備されました。以下、その報告をいたします。

**概括** ORが、企業において、どのような形で利用されているのか、また、将来どうあるべきかというような問題に対して、企業から提言、ご意見をいただき、積極的な討論が行なわれることを期待して、特別テーマ「企業におけるOR」を取り上げました。研究発表は、特別講演3件、研究部会報告7件、一般発表85件、ペーパー・フェア11件があり、出席者は正会員176名、学生会員38名、賛助会員32名、非会員14名、計260名でした。今回は、発表会出席の皆様と起居をともにして、互いの親睦を深め、より有益な発表会にしたいという実行委員会の主旨にご賛同いただき、会場に隣接した宿泊棟に延べ100名を越える方々に、ご宿泊いただきました。

**特別講演** 第1日目は、東京理科大福岡正己氏により「地下水公害」の講演がなされた。地下水を多量に汲み上げることにより生じる地盤沈下の問題、皇居のお堀の水位の減少の問題等をたいへん興味深くお話しいただいた。

第2日目は、秩父セメント中川東一郎氏により、まさに特別テーマにぴったりの「企業とOR」の講演があった。豊富な経験をもとに話される内容は、たいへん説得力のあるものであった。つづいて午後から、第7回OR学会文献賞を受賞された東京工大小島政和氏の「不動点アルゴリズムと数値計画法」の講演が行なわれた。非線形方程式の解法に関する画期的で格調の高い内容であった。

**研究発表** A～Eの5会場に分かれて発表を行なった。A会場では、統計、特別テーマ、シミュレーション、地域環境等、B会場：数値計画法等、C会場：グラフ、マルコフ過程、ゲーム等、D会場：信頼性等、E会場：マーケティング、待ち行列等の発表がなされた。

各会場とも聴講者が多く盛況で、とくに、C、D、E会場は、A、B会場に比べて小さかったために、満員となり、皆様にご迷惑をおかけしました。

**ペーパー・フェア** 第1日目の15:20より1回に5、6件ずつ2回に分けて行なわれた。各講演会場をそのままペ

ーパー・フェア会場に使ったために、講演者側からの一方通行的な形になってしまった所もあり、「夜店」的雰囲気が出しきれなかったようです。しかし、内容は非常に興味深いものが多く充実していた。

**懇親会** 大会第1日目の夜、会場内の食堂において、懇親会が催された。当夜、宿泊される方の大部分を含めて計56名が参加した。理科大の橋高理事長も参加され、非常に活況を呈した。会は、実行委員古林氏（埼玉大）の司会でなごやかなうちに進められ、途中、数名の方が、本大会の感想等を話された。飲物等は、セルフサービスであったため、それぞれ十分堪能された様子であった。

**見学会** 22日土曜日に、キッコーマン醤油野田工場を見学した。当日、車で参加された会員の方々にお願いして、数台の車に分乗して、見学会場に向かった。OR学会のために、とくに工場次長自らにご案内いただき、映画を含めて約1時間、醤油の製造工場、ビンづめ工場を見学した。その後、野田市郊外の野趣あふれる店でなごやかに昼食会を行ない解散した。参加者は約20名であった。

**反省と謝辞** 駅から会場まで少し距離があり、道案内の標識を立てたが、それが子供のいたずらで取り外され会場を探すのに苦勞された方がいたり、会場の広さの予測にミスがあったこと等、実行委員会の不手際で、ご迷惑をおかけした所も多分にあったようですが、各会場とも参加者の出席率がよく盛況であり、また、起居をともにして出席された方も多く、夜遅くまで、活発な交流が行なわれたこと等、ひとえに皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。ただ、学生会員の参加が少ないことが残念で今後の課題の1つとして残されているように思います。

最後に、皆様のご協力によりまして無事大会が終了し得ましたことを深く感謝いたします。（実行委員会）

## 秋季大会参加の記

大学にいて、ORにかかわりをもつわれわれにとって、このような研究発表の場で、本当に役に立つORとはどんなものであるのかということ聞かせていただく機会を得ることは非常に大切なことであろう。大会2日目の特別講演、秩父セメント中川東一郎氏による「企業とOR」は、企業とORの関係を、企業の立場からとOR研究者の立場から比較し、企業にとって役に立つORとはどんなものかについての講演であった。従来、ORは役に立つかということしばしば問題にされ、企業にとって役に立つORは、大学の研究室で行なわれ、研究されるものよりはかなり泥くさいものであると指摘されてきた。中川氏は長年、実際に企業においてORの問題と取り組んでこられた経験を、例をまじえて話され、話に、経験豊富であるがゆえの格調の高さと説得力がありたいへん有益であった。

第1日目に、東京理科大学福岡正己氏の特別講演「地下水公害」があった。自然環境保護の立場から、本大会のために用意された数多くのスライドを用い、地下水を多量に汲み上げることにより皇居のお堀の水位が下がることを例にとり、調査の仕方をも含めて話された。水位低下の原因をさぐるのには、地層の状態の複雑さのために現象解明には非常な困難が伴うことを種々の場合を例にとり、非常に興味深く説明された。しかし未だ完全な解明には至らず、手さぐり状態で進まなければならない箇所も多々あると思われるが、今後の研究に大いに期待したい。また環境公害の問題は、当学会の会員も、さらに興味を向けなければならない重要な問題であろう。

東京工業大学小島政和氏による特別講演「不動点アルゴリズムと数値計画法」は非線形方程式を数値的に解く方法について、歴史的にどのような方法が試みられ、現在、何が問題となっているかについての詳しい解説とその非線形数値計画問題への応用の話であった。ことに、OHPによる図解入りの説明は専門外のものにとっても親しみやすくていへんわかりやすかった。これは、ORの諸問題においても有力な解析手段となると思われる。座長からも、この方法により、経済理論における非線形方程式が解けるようになったとのコメントがあった。

これまで主に、特別講演についての感想を述べてきたが、一般講演、ペーパー・フェアにも興味あるものが多かった。ただ1つ感じたことは、企業の人の研究発表がもう少しほしいように思った。最初にも書いたように

もっと、現場に散在する生のOR的問題を紹介していただけたらと思う。

(東京理科大 宮沢政清, 清水邦夫, 神保雅一)

## セミナーハウスに宿泊して

今回はシンポジウム「ORとエントロピー」も聴講しようと、19日の朝早く涼しくなった札幌を立った。広々とした東京郊外、野田の東京理科大学キャンパスのセミナーハウスで、かなりの暑さの中シンポジウムは始まった。最近のエントロピー・モデルのいくつかの結果と応用例が講演されたが、私には講演の内容がシンポジウムとしては少しばかり細部にわたりすぎた点もあったように思われた。

このセミナーハウスには宿泊施設が完備されており、私に割当てられた冷暖房完備の部屋には2段ベッドが2つ、机が2つあって、これを実行委員の方と2人で利用することとなった。朝は小鳥の声で眼をさまし周辺の遊歩道を散歩した。遊歩道には順路があって、その地図を受付でもらって附近の名所を巡ったのである。松林を抜けて池に出ると白い鳥を見たが、あとの懇親会の席での理科大の理事の方の説明ではそれが白鷺であるとのことだった。私は昨年まで東京に十数年住んでいたが、東京周辺にこのような場所があることを知らなかったのも、これには驚かされた。他の多くの宿泊者も早朝のジョギングや散策でこの自然を十分楽しんだことだろう。なお理科大はこのセミナーハウスを教授と学生の生活をともにする交歓の場として利用しているようで、確かにその機能を果しているだろうことが納得できた。

大会はこのような緑深いキャンパスで2日間にわたって開催された。第1日には、私はA会場において聴講したが、発表時に問題の前提をもっと明示してほしかったもの、データをOHPだけでなく記録しておきたかったものなどが多く残念な点があった。第2日の朝はC会場で聴講したが、そこでの座長の発表に対する采配は適切であり、不明と感じられた点をその時点で明らかにさせたので実にわかりやすい発表となっていた。

大会会場と宿舎をセットにした大会はユニークだったようで評判はとても良かったが、実行委員の方々も昼も夜も応待に追われとくに大変な苦勞だったと思われる。盛大な大会となり、関係者の皆様のご尽力に深く謝意を表わします。

(小樽商科大学 杉本英二)